

公立大学法人島根県立大学の平成22年度に係る業務実績に関する評価のポイント

(1) 特に顕著な成果が見られた事項…「評点5」の項目

事 項	概 要
①大学憲章の内容周知と憲章の精神に沿った事業実施 (No.1)	大学憲章の学内外におけるPR、憲章の精神を顕現するため開学10周年記念事業を実施した。また憲章の目標に資する特筆すべき取組として平成24年4月看護学部設置方針決定と準備開始、文部科学省補助金を獲得している。
②アドミッションセンターによる学生募集等の実施(No.131)	各キャンパスで入学定員充足率100%以上の達成、県立大学における一般選抜試験での高い志願倍率を維持した。
③キャリアセンターによる就職支援等の実施 (No.132)	就職環境が悪化する状況にも関わらず、キャリアアドバイザーを配置するなど、きめ細かい支援体制を整えることにより高い就職率を維持した。
④競争的資金の獲得に向けた取り組み (No.156)	文部科学省大学教育改革支援プログラム新規1件を含む5件のプログラムが進行した。
⑤卒業生データの同窓会運営への活用 (No.175)	九州支部を設立し、全国の支部体制を整えた。開学10周年を記念し、在学生在が卒業生をキャンパスに迎える事業を実施した。

(2) 平成21年度の「今後の取組みが期待される事項」の取組状況

評点3以下 (意図した実績が達成されなかった事項)

今後の取組みが期待される事項<H21>	取組状況
帰国留学生に係るネットワーク化について、会報等の内容を帰国留学生にふさわしいものとするなどして、ネットワーク化を促進されたい (No.175)	キーパーソンとなる帰国留学生と連絡を取り、ネットワークの方向性を整えた。会報の送付を行っている。 【H22評点：法人4、事務局4】

(3) 平成22年度実績に係る今後の取組が期待される事項

評点3以下の項目

項 目	概 要
①「エコキャンパス実行計画」に基づくエコキャンパス活動の推進(No.165)	「エコキャンパス実行計画」を改訂するとともに、年度途中の実績を速報し、取り組みの徹底を図ったことは評価できるが、使用量が増加しているため、消費エネルギーの削減に努められたい。
②情報セキュリティポリシーに定められた情報の格付けを策定し、運用を開始する(No.181)	情報の格付け及び運用が暫定的なものに止まっているため、早期に本格運用を始められたい。

(4) 法人自己評価を変更した項目とその理由

項 目	概 要
①保健管理センター（学生及び教職員の健康管理等(No.136)【評価4→3】	総合学生情報システムを有効に活用し、学生の健康状態をとりまとめる体制はできているが、関連する内容の総合的な検討ができていない。

(5) 全体評価

<中期目標各項目別の状況>…年度計画各項目を5段階で評定し、その平均値で評価

※中期目標…県が公立大学法人島根県立大学に対して6年間(H19～H24)に達成すべきものとして指示した目標

中期目標の大項目	評点平均値				評 定
	大学		事務局		
①新たな大学構想の確立と実現に向けた取組	5.00	AA	5.00	AA	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.05	A	4.02	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要項目	4.00	A	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

昨年の評価で「今後の取組が期待される事項」として記した事項は概ね取組まれていた。

法人化4年度の平成22年度の業務運営は、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(6) 大学の教育研究等の質の向上に対する評価の概要

大学の3つの基本的な目標（①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学）に照らして評価

■特筆すべき点（注目される点）

	計画の進捗状況及び成果
学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学	<p>◆（共通）志願者を確保するための効果的な広報を実施し、オープンキャンパスの参加者を増加させた。（No.6）</p> <p>◆浜田キャンパスにおいて、初年時教育の中核をなす「フレッシュマンセミナー」を見直し、平成23年度から、春学期にはアカデミック・スキルズ学習を行う「フレッシュマン・スキル・セミナー」を開講し、秋学期には学生が地域に出かけ、自己の学習課題を発見し、学習目標を探求する「フレッシュマン・フィールド・セミナー」を開講することとした。（No.16）</p> <p>◆浜田キャンパスにおいて、入学時から進路や人生設計を意識させ、「キャリアデザイン」構築の必要性を理解させる教育を実施した。また3～4年次には、キャリア形成教育を実施し、OGOBを多数招き、現役学生のキャリアサポーターの協力を得て、より効果的な就職活動準備を行った。（No.24）</p> <p>◆松江キャンパス健康栄養学科において、栄養士の免許を活かした就職率82.7%（目標：60%以上）。（No.36～39）</p> <p>◆松江キャンパス保育学科において、卒業時の保育士資格と幼稚園教諭2種免許の併有率100%（目標：90%以上）、保育士資格・幼稚園教諭2種免許とその他の資格併有率75.5%（目標：50%以上）。（No.40～43）</p> <p>◆出雲キャンパス看護学科において、看護師国家試験合格率100%（目標：3年短大新卒平均94.4%を上回る）。（No.48～49）</p> <p>◆出雲キャンパス専攻科において、保健師国家試験合格率100%（目標：専攻科新卒平均95.9%を上回る）、助産師国家試験合格率100%（目標：専攻科新卒平均94.5%を上回る）。（No.50～51）</p> <p>◆出雲キャンパスにおいて、臨床と教育を結びつけ、学生の実習における経験と質の向上を図るため、県立病院との看護連携型ユニフィケーション事業の基本協定を締結し、平成23年度の具体的な連携事業活動計画を作成した。（No.49）</p> <p>◆（共通）図書館の充実やサービスの向上を図り、学生貸出冊数が目標を上回った。（実績：42,036冊 目標：36,500冊）。（No.67）</p> <p>◆浜田キャンパスにおいて、大学院修士課程生をRA（リサーチ・アシスタント）に雇用し、外部資金による研究成果取りまとめにおいて必要な統計データの処理、図表の作成に貢献した。またRAは、RA活動で得た知見を一部用い、修士論文を完成させた。（No.106）</p>
地域に根ざし、地域に貢献する大	<p>◆出雲キャンパスにおいて、高大連携を促進し、年度計画の5校にとどまらず、他の高校からの依頼により出前講座を行い、大学においても高校生を対象とした「夢</p>

<p>学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実現フォーラム」を開催した。(No.7) ◆中山間地域研究センターとの連携大学院において実践を重視した教育を行い、「中山間地域政策論」等の科目を開講した。また連携大学院の教員の研究指導を受けた学生2名が修士の学位を修得した。(No.54) ◆北東アジア地域学術交流研究助成事業や外部資金を利用した島根県の地域振興や中山間地域等の課題解決につながる地域貢献プロジェクト6件、委託・共同研究4件が実施された。また浜田キャンパスにおいて、大学の就業力育成支援事業(GP)に採択され、学生が地域に出かけ、地域から学び、研究していく体制が固まった。(No.93) ◆副センター長を中心とする NEAR センターアドバイザー会議において、市民研究者と連携して出雲学、石見銀山等地域に関する研究を行う体制を来年度試行すべく検討しただけでなく、市民研究者が研究グループを構成し、それに研究員が可能な限り関与する制度を構築し、当初の予定を大きく上回る成果を挙げた。(No.99) ◆松江キャンパスにおいて、松江市「まつえ市民大学」事務局と引き続き連携を行い年度計画を十分に実施し、さらに年度計画を上回って「荒神谷博物館」「松江家庭裁判所」の2つの地域公的団体との連携講座を開設し、地域連携を深めた。(No.110) ◆出雲キャンパスにおいて、各種団体やNPO法人等の提供するボランティア情報を学生に提供するとともに学生ボランティアマイレージ制度を運用した。登録学生20名、ボランティア参加事業15事業、参加学生延べ27名であり、学生ボランティアの推進を図った。(No.113) ◆松江キャンパスにおいて、初等・中等教育側、大学教育側、双方に教育的成果のある事業を継続して実施できるよう全学あるいは各学科において、地域の教育機関との緊密な連携協力を図り、「総合的な学習の時間」協力・読み聞かせ実践・キャンパス探検・食育実践指導・英語活動支援等の連携事業を実施した。また計画を上回る活発な連携活動を実施した。(No.117)
<p>北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆優秀な留学生を確保するため、中央民族大学との交流協定の締結と同時に「学生の相互派遣に関する覚書」を交わし、優秀な学生を継続的に受け入れる仕組みを構築し、平成23年度は3名の入学者を受け入れた。(No.11) ◆「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」の各種取組を通じ、博士後期課程入学者が「競争的課題研究プログラム」を申請することの妥当性を検討し、制度を改正した。また改正した制度によって、准研究員を春学期・秋学期に1名ずつ任命指導し、当初の予定以上の成果をあげた。(No.58) ◆東北大学東北アジア研究センター、富山大学極東地域研究センターとの連携を促進するため協定を締結した。また、東京大学、金沢大学、一橋大学等との共同研究を実施した。東京大学および金沢大学との共同研究では、当初の予定通り、国際シンポジウムの開催、中国での現地調査を実施し、研究成果を公表し、所期の予定以上の成果をあげた。(No.102) ◆研究職にある海外同窓生を NEAR センター客員研究員に任じてネットワークを

	<p>構築し、大学院修了生賀志明氏が「産学官連携による石見の中国人向け観光誘致プラン」に協力のために来学した。(No.104)</p> <p>◆新たに、ロシアの海洋国立大学、中国の中央民族大学と交流協定を締結するとともに、韓国の啓明大学校との交流協定締結の検討を行うなど、海外大学、研究機関との交流促進を図った。また、NEARセンターにおいては、井上治研究員が中心となって中国中央民族大学との交流協定締結を進め、学術研究上の交流を前提とした協定を結び、将来の実質的交流を促進する素地をつくり、所期の予定以上の成果を挙げた。(No.119)</p>
--	---

■ 昨年の指摘事項について

項 目	取組状況
<p>学部・学科教育の水準の維持と、学生の修学意欲を向上させるためにリメディアル教育が実施されているが、学士力確保のための進級制度の基本設計については、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーが重要となる。これらの策定作業を進めることにより、進級制度の基本設計を検討されたい。(No.16)</p> <p>※リメディアル教育 大学教育を受けるにあたって、不足している基礎学力を補うため行われる教育</p> <p>※ディプロマポリシー 学位（単位）授与認定方針</p>	<p>総合政策学部のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを策定し、これらのポリシーを踏まえ、四年一貫教育を基本としたカリキュラム体系における進級のあり方についても検討しながら、カリキュラムの再編に取り組んでいる。</p>
<p>高校生を対象とした公開講座の実施や連携先の高校を対象とした大学授業の提供など、いわゆる高大連携事業が推進されているが、引き続き現状分析、改善の検討を行い、内容の充実を図るとともに、同事業が円滑に行えるよう提携可能な項目のメニュー化を図られたい。(No.7)</p>	<p>連携可能な項目についてメニュー化（大学見学会、大学・学部説明会、高等学校出前講座）を行い、大学ホームページに掲載している。平成23年度以降、高等学校との進路指導懇談会（県内東部地区、西部地区の計2回実施）などにおいても周知を図ることとしている。</p>
<p>教員個々の研究業績や研究成果は、公表し評価を受けることで教員の資質向上や地域への知の還元につながるものと考えられる。今後は、ホームページへの掲載やReaDへの登録など積極的な公表に努められたい。(No.95)</p> <p>※ReaD 研究開発支援総合ディレクトリ（Directory Database of Research and Development Activities）の略称で、独立行</p>	<p>これまでのホームページへの掲載やReaDへの登録に並行して「教員研究業績データベース」の導入・平成23年度6月からの運用に向けて作業を進めている。このデータベースの導入により、教員個々の研究業績、研究成果について、ホームページへの掲載やReaDへの登録を一元的かつ容易に行うことが可能になり、これまで以上の公表が可能になる。</p> <p>県立大学メディアセンターでは学術機関リポジトリシステム「USAGI」を構築し、公開している。これは学内の研究者による学術研究成果物（学術雑誌論文、紀要論文等）を電子的に収集・蓄積し、インターネットを介して学内外に無料公開するシステムであり、この</p>

<p>政法人科学技術振興機構 (JST) が運営するデータベースサイト</p>	<p>システムを通じて研究成果の公表も行っている。ホームページについてもRubyを活用したCMSを用い、掲載情報の頻繁な更新による情報の鮮度アップを図ることとした。</p>
<p>◆北東アジア地域の研究について、各種の研究会、学術的な交流会、学外研究者を加えての共同研究、国際シンポジウムなどさまざまな試みがなされて研究が推進されている。</p> <p>研究成果を研究紀要において公表したり、NEARセンターの講座等で発表されてもいるが、北東アジアの諸問題を研究する「知」の拠点として、更に、北東アジア研究の拠点としての存在感を一層示すために、北東アジアに関する叢書や高度入門書の刊行等着実にかつ計画的に推進されたい。(No.90、94)</p>	<p>『北東アジア学創成叢書 (仮称)』の第1巻刊行に向け着実に執筆を進めている。また第2巻以降についても執筆に着手するための準備を行っている。北東アジア超域研究の研究成果については、各研究員により原稿を執筆中であり、平成23年度内の刊行に向け着実に作業を進めていく。</p>

■遅れている点 (課題がある点)

項 目	概 要
<p>○松江キャンパス総合文化学科において、TOEIC 受験者の2年次平均スコアを1年次平均スコアより増加させる。(No.44~47)</p>	<p>目標の30点以上の増加が達成されていない。(1年次平均スコア408.1点、2年次平均スコア431.4点)</p>
<p>○OFD活動(研修会等)への年1回以上の参加率。(No.64)</p>	<p>目標の参加率90%以上が達成されていない。(実績80.5%。松江・出雲キャンパスにおいては達成されているが、浜田キャンパスの参加率が低い。)</p>
<p>○授業料減免制度について、意欲ある学生が修学しやすい環境づくりを勧めるための見直しを行い、平成23年度からの新制度を開始する。(No.88)</p>	<p>制度周知、運用の詰めが遅れたため、平成24年度新入生からの適用となった。</p>